

2019

1

No.48

新春号

JR札幌病院広報誌

H O T N E T

ほっとネット

Contents

P1 巻頭言

年頭のご挨拶

院長 安藤 利昭

P1 ホームページがリニューアルしました。

P2 あなたの禁煙、応援します！

保健管理部 保健師 小原 健太郎

P2 新任医師紹介

P3 特集

平成30年 北海道胆振東部地震 JR札幌病院に関するご報告

P4 震災を経験して

P5 最近の話題「完全側臥位による摂食方法」

リハビリ室 言語聴覚士 工藤 育恵

P5 院長賞

P6 地域発

医療法人社団 岡本内科クリニック

理事長 岡本 正敏先生 院長 岡本 敏哉先生

新そらちゃん&はなちゃんシリーズ
“そらちゃんのはなちゃん最終回”

いきいき
活き粋 川柳



ICC・ICT教育講演会



玄関前のクリスマスツリー



災害支援ナースの派遣報告会

JR札幌病院 基本理念

心の通う医療

信頼される医療

地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 社会のニーズに合った専門的な医療を提供するよう、医療技術の向上に努めます。
2. 患者様の権利を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 地域の各機関との連携を重視し、地域医療に貢献します。
4. JR北海道の職域病院として、社員・家族の健康増進に寄与します。



H29.10.6 日本医療機能評価機構より
3rdG : Ver.1.1の認定を受けました。

JR JR札幌病院
JR北海道 JR SAPPORO HOSPITAL

JR札幌病院
ホームページ
QRコード





年頭のご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は日本全国で自然災害が多発し多くの方が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。その中でも北海道では豪雨災害に引き続き、地震とそれによる全域停電（ブラックアウト）という想像し得なかった状況に見舞われ、今もおその直接・間接の被害に苦しんでいる方も多いものと思われま。一日も早く被災前の状態に戻る事が出来るよう心よりお祈り申し上げます。

また、今年の前半で年号が平成から新しくなりますが、災害や大きな事件の少ない、より良い時代の始まりとなることを期待するばかりです。

さて、当院は本年も、今まで同様多くの医療機関との連携により地域医療に貢献すべく努力して参ります。地域の皆様や医療機関の皆様に当院の情報をよりわかりやすく提供することが重要であり、昨年11月にホームページを更新致し

ました。当院を受診される予定の皆様やご家族の皆様も、一度ご覧頂ければと思います。

このような当院の情報発信の充実だけでなく、地域に根ついた病院として親しんでもらう事も必要と考え、昨年は“病院祭り”を行いました。これは一般の皆様に参加して頂き種々の医療部門の仕事などを体験し理解して頂くために企画したものです。お陰様で予想より大勢の方々に参加いただき、楽しんでいただきました。本年もこのように皆様と触れ合い、病院を少しでも理解いただけるような機会を持つことが出来ればと考えております。

本年も地域の皆さまの期待と信頼に答えるため、より良質な医療を提供するよう努力して参ります。

皆様にとりまして本年がより健康で充実した年になりますことを祈念申し上げます。



院長
安藤 利昭

ホームページがリニューアルしました。

新アドレス: <https://hospital.jrhokkaido.co.jp/>

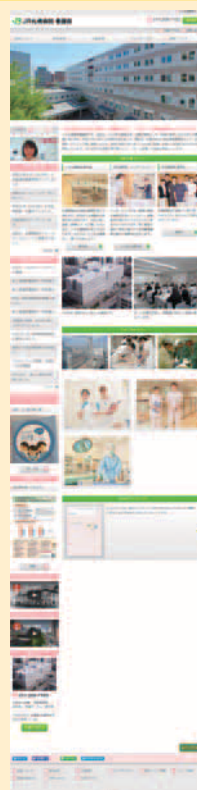
11月よりホームページがリニューアルされました。

主な点としてはスマートフォンにも対応が可能となり、より見やすい画面となりました。また、「顔の見える連携」を意識し顔写真を掲載した医師の紹介を行うことで、より地域の皆さまや医療機関の方が身近に感じていただけるよう配慮しています。一度ホームページをご欄になってみて下さい。

新しいJR札幌病院
ホームページQRコード



新HP PC画面



看護部門ページ



携帯画面

あなたの禁煙、応援します！

当院では毎年5月と12月の年2回、禁煙応援イベントを実施しており、外来でいらした患者様、付き添いのご家族様など多数の方ご参加を頂いています。

皆さんは自分の肺にタバコの汚れをどのくらい取り込んでいるか、ご存知でしょうか。禁煙イベントでは、タバコに含まれる有害物質のひとつである一酸化炭素(CO)が吐く息の中にどれくらい含まれているかを数値で知ることが出来る「呼気一酸化炭素濃度検査」を無料で実施しております。

検査を受けられた方の中には自分の肺の汚れに驚き、禁煙を決意したという方もいました。繰り返し失敗した経験から禁煙に踏み切れないとお話してくれた方もいましたが、当院ではお薬とカウンセリングにより禁煙をサポートする禁煙外来があり、イベントに参加したことをきっかけに予約をされた方もいらっしゃいました。

非喫煙者や既に禁煙成功者の方も参加可能で、受動喫煙のリスクについて知ってもらう機会にもなっています。

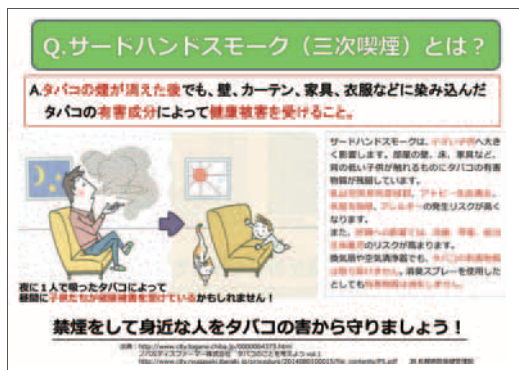


図1 サードHANDSモークとは？



今年は、タバコと循環器疾患の関連についてのポスターや、近年注目されているサードHANDSモーク(直接副流煙を吸っていないくても、服や壁についたタバコの有害物質の暴露を受けてしまう)について分かりやすく書いたリーフレット(図1)を作成し、配布しました。

12月には、数年で使用者が増えている、タバコの葉を燃焼させずに加熱する「加熱式タバコ」(図2)の害や危険性についても紹介しました。

今後もイベントや禁煙外来を通して、禁煙をするきっかけづくりや禁煙成功をサポートさせていただきたいと思います。

禁煙外来のお問い合わせ、ご予約について

受付(完全予約制です) 実施曜日 火曜…13:00~15:30

土曜…9:00~11:00

代表TEL 011(208)7150 禁煙外来(保健管理部)まで



図2 見えない煙も要注意



新任医師紹介

①略歴 ②専門分野 ③趣味 ④一言



消化器内科 志谷 真啓

①平成15年札幌医科大学卒業。市立釧路総合病院、道立江差病院、札幌厚生病院、札幌医科大学消化器内科講座を経て平成30年10月より当院勤務。

②胆道・膵疾患

③鉄道鑑賞

④この病院で完全燃焼しようと思っています。よろしくお願いします。

特集

平成30年 北海道胆振東部地震 JR札幌病院に関するご報告

9月6日午前3時8分頃に発生した北海道胆振東部地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。今日の地震では震源に近い厚真町で最大震度7を記録した他、札幌市中央区でも4弱の揺れが生じ、人的・物的被害をもたらしました。全道的な停電により、停電中は自家発電に限られ大型の医療機器などが使用できず、病院機能に大きな影響がありました。JR札幌病院の震災直後から、その後の対応までをご報告します。

9月6日(木) 震災当日

初期状況(3時過ぎ)

・参集スタッフにて各部署状況確認

各病棟入院患者様、各病室ともに異常なし。

3時25分停電発生し、非常電源に切り替わる。

・各病棟病室、医療機器の非常電源を確認。

4:00頃 対策本部を結成

・院内各機能(水道・酸素・医療検査機器・電子カルテ等)の確認を実施。

・エレベーターは本館棟業務用1機、外来用1機が稼働。

6:30 各部署長・医師が参集し、本日の方針決定

・外来診療は、縮小して診療を行う方針決める。

・ホール棟に案内者を配置して、外来患者への対応。

・階段消灯中のため、職員が入院患者の付添対応。

・非常用発電機の燃料(灯油)が残りわずかなため、関係各所へ調達依頼。

10:00 定期参集 現状確認

・非常電源の灯油は、当日夕方まで確保。

・透析室:保健所から受入要請があり、受入決定。

・栄養科:災害食対応となる。

14:00 定期参集 現状確認

・在宅酸素患者の入院受入を決定。

北電供給再開 14時55分

16:00 定期参集 現状確認と明日の方針

・熱供給公社が未稼働のため、給湯・空調関係稼働不可。

・栄養科:物流障害により食材が確保できず非常食対応。

・夜間の医師・看護師などの医療体制を決定。

・外来診療は、明日も本日同様の対応。

9月7日(金) 2日目

7:00 定期参集 昨日までの状況報告・本日の予定

・夜間は問題なく経過。緊急性のある患者が数名入院。

・給湯の再開目途は立っていない。

・外来診療体制は前日と同様に縮小対応。

・放射線科・リハビリ・臨床検査室 通常どおり稼働。

・栄養科:本日朝・昼 災害メニューとする。

13:30 定期参集 現状確認

・臨床検査室:血液センター配送遅延あり。

・栄養科:夕食から温かいごはん、みそ汁提供する。主菜等は臨時の別メニューとする。

・外来診療:予約可否の問い合わせに対応。

16:00 定期参集 現状確認

・臨床検査室:感染症検査の実施可能である。

・栄養科:乳製品等供給の見込みなし。火曜日夕まで臨時の別メニューで対応。

・交通状況:JR千歳線快速列車運行開始、札幌市営地下鉄運行開始、バスはまだ運行再開不明

9月10日(月) 通常診療となる

9月20日(木) 病院内の反省会を実施

北海道胆振東部地震における震災対応反省会を実施

事前に各部署で震災対応の問題点・改善点を話し合い。

①各部署からの振り返り②今後の震災対応に関する改善等の進め方について検討。

9月28日以降 医療安全講演会を5回開催

9月20日の反省会をふまえ、今回の災害を振り返り今後どう生かしていくかを、9月28日より、村上真一医師(麻酔科、防災実行委員)により講演会を実施。災害医療の基本コンセプトCSCATTTを提示し、問題と対策を検討。

災害医療基本コンセプトCSCATTT

C:Command and Control 指揮、統制

S:Safety 安全

C:Communication情報伝達

A:Assessment 評価

※CSCAの確立なくしてTTTなし

T:Triage トリアージ

T:Treatment 治療

T:Transport 搬送



震災を経験して

夜中、やっと眠りについてうとうとしているとグラツと横に振られるような揺れで目を覚ました。地震嫌いの娘は飛び起きていた。結構な揺れ、出勤するかと考え、寝ぼけながらも行動を開始した。放射線科技師長・病院長に連絡を取り、社員の安否確認をしながら出勤した。移動途中に停電し、道路も真っ暗になった。どうにか無事出勤すると検査室も何名かが自主参集してくれており心強い思いだった。非常電源対応の中、機器の確認を行い最低限の検査が可能ないように準備を進めることとなった。人手が必要と思い、近隣の社員を呼び出して協力してもらう。いつも早めに来ていたメンバーも来てくれてどんどん準備が進む。去年の停電テストがよい経験となり順調に準備が出来上がった。あとは病院の受け入れ態勢に合わせて対応しようと打ち合わせし、業務配置についてもらった。大きなトラブルもなく淡々と体制が整った。あまりにも順調で安心と見落としがないか不安が行き来した。みんな大変な中、出社してくれてとても助かった。大きな機器等の破損もなく電気が来れば、普通に業務が出来そうとなり、通電すると同時に皆が機器の整備をしてくれて、無事準備完了となった。通電後数時間でほぼ復旧確認となり、これで検査室は大丈夫と思い胸をなでおろした。(臨床検査室 久保 敬祐)



9月の地震・停電時、幸い当院は自家発電の設備があり栄養管理室の冷蔵・冷凍庫は使えましたが、回転釜やオープン、食器洗浄機など使用できない機器が沢山あり、非常時に備蓄していた家庭用のカセットコンロを20台近く使って湯を沸かし、非常食を用意しました。アレルギーや個人の食事内容の確認もパソコンが使えず手作業だった為、通常の約3倍の時間と人手がかかりましたが、様々な方の助けもあり無事1日3食、事故無く食事を提供できました。普段と大きく違う食事に戸惑われた患者さんもいらっしゃったかと思いますが、ご協力頂きありがとうございました。(栄養管理室 鈴木 彩香)



震災の経験は、過酷な勤務経験であったが、スタッフのプロフェッショナリズムの一面を垣間見たうれしい経験でもあった。地震の規模は、参集要件を満たしてはいなかったが、異様な停電状況に危機を感じとり、臨機応変な判断にて職場へ確認に集まってくれた。災害時には、自宅待機となる職業が多いが、医療においては、危機的な状況になるほど出勤の重要度が高まる。しかし、そこに携わる人も被災者である。利他の心に触れた経験であった。

(中央放射線室 岡 時敬)



発災直後、病院へ向かう途中、停電がございましたが、病院は非常電源が発動しており、一見いつもと同じ夜間でした。すでに数名が登院しており、情報交換しながら病棟を巡回しました。病棟看護師は、患者・病室の状況確認、患者さんへの安全配慮、声掛けなど、初動対応を速やかに行っており、被害もなく一安心しました。その後、続々と職員が集まる中、1階の時間外診察室に災害対策本部を置き、1時間おきに集合し情報の集約を行いました。連絡体制や情報収集・共有等に課題は残りましたが、交通機関がない中、2時間も歩いてきた人もあり、各部署の職員が懸命に役割を果たしてくれたと思います。在宅酸素療法患者さんの入院や他院の透析患者さんの受け入れなど非常時の対応を行うこともしました。

先日、災害支援ナースの派遣終了後報告会がありました。災害の恐ろしさを改めて感じ、災害対策マニュアルを基本に災害のレベルに応じて、実動できる体制の見直し・整備が必要と思います。被害の多かった地域においては、避難生活が続き、災害への不安が続く中、1日も早い復旧をお祈りいたします。また、震災時、入院・外来の患者様には、多くのご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

(看護部 坂本 瑞江)



9月6日(木)午前3時07分地震発生当時、就寝中激しい縦揺れで飛び起き、すぐに病院へ向かいました。病院に着く直前3時25分街灯と信号が一齐に消えブラックアウトが発生。病院到着時に院内の照明が点灯していることで発電機が稼働していることを確認しました。守衛室で把握している被害状況を確認したところ、5階東病棟の防火扉が開放して閉じなくなったこと、エレベーターが停止しているが業者に連絡済でそれ以外の被害はないとの報告を受け、5階の防火扉の応急対応を行いました。患者給食用の非常食、水を栄養管理室社員とともに保管庫から運び出し食事提供の準備を行いました。停電復旧の見通しが立たない中、非常用発電機の燃料が枯渇することが確定的となり、ジェイアール北海道バスの近隣営業所から燃料である灯油を融通してもらい、社用車でピストン輸送を行い、発電機の運転を継続することができました。発電機の燃料確保は当日15時頃の復電までの最優先課題となりました。今回は地震より長時間にわたる停電による影響が大きく、今後は燃料の確保、ごみ処理、災害マニュアルの見直し等様々な課題への対応を行っていかねばならないと考えています。

(総務グループ 河原 幸雄)



最近の話題 「完全側臥位による摂食方法」

完全側臥位法とは？

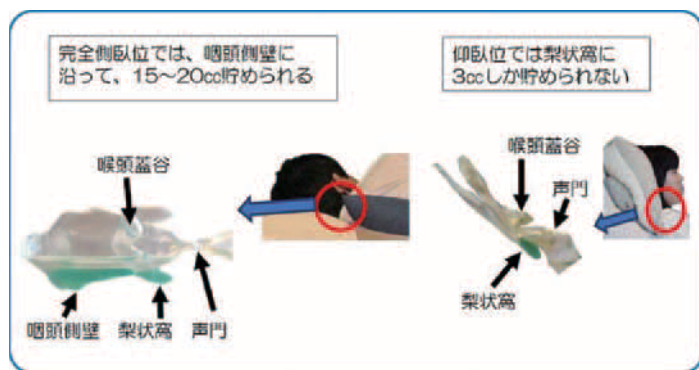
通常の体を起こした姿勢では、誤嚥する等でうまく飲み込みができなくても「横向き」になると円滑に食事ができます。飲食物を咽頭の誤嚥しない安全な場所にたくさん貯められます。

適している方は？

食物の咽頭通過時に問題のある方、座位での姿勢保持困難な方（褥瘡、円背、血圧低下、呼吸苦など）

方法は？

横になり、体全体で「くの字」の姿勢をとります。食材はの下側面を通過するので、気管に入りづらくなり、誤嚥の予防に効果があります。クッションや抱き枕などを使って姿勢を保持することが重要です。また、食後に水やお茶などで喉の残留物をクリアにする「フィニッシュ嚥下」が必須です。

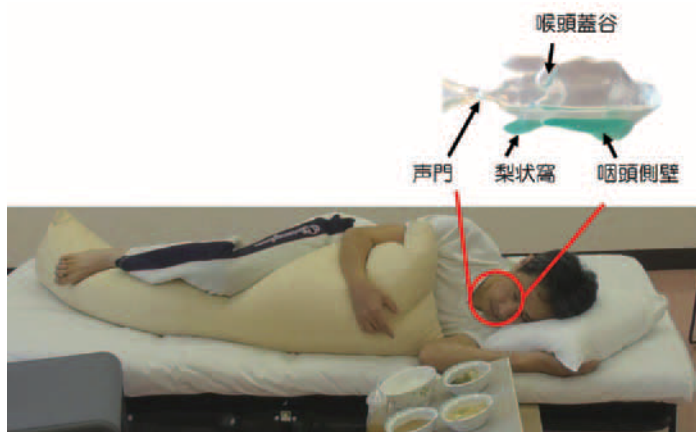


当院での症例

気管側にふたをして誤嚥を防いでくれる喉頭蓋が変形しているために、嚥下のたびにむせて食事が十分に摂れない方でした。完全側臥位法によって円滑に摂取できるようになり、退院時には減少していた体重、筋力、栄養状態全てが改善しました。



リハビリ室
言語聴覚士
工藤 育恵



※画像・写真は、(株)中南医療器研究所よりお借りしました(掲載許可は確認済み)。

院長賞

院内に「褒め合う文化」を定着させ、ひいては頑張った職員のモチベーション向上など「明るい職場作り」の一助とすることを目的に、このたび、「院長賞」を制定しました。

表彰基準

病院運営にとって、院長が推奨すべきと認める功績を表彰する。なお、職責の中で、当然行わなければならないものは、原則除外とする。

【想定される功績】～「すごくがんばった」ことが基本

●受賞者から一言

患者サロン「虹色カフェ」でがんリハビリの有用性について患者さん・ご家族がわかりやすい講演を行った リハビリ室 成田 葉月 さん

がんのリハビリは、がん患者様の療養生活の質を向上できることを目標に実施しています。入院による環境変化、完治しない病気に向きあう精神的ストレス、それを支える家族の苦悩など多くの問題があることを経験してきました。治療中もリハビリが患者様の身体的・精神的負担を減らせることを知っていただく機会が持て、感謝しています。患者様が「やってよかった」と感じる効果的なリハビリを提供できるよう、より精進していきます。

エスカレーター転倒事故で緊急停止対応を行った 2階外来 永井 礼子 さん

事故を目の当たりにし、少し驚きましたが、事前に所属部所でエスカレーター事故時のレクチャーを受けていたので、落ち着いて対応することが出来ました。近くにいたスタッフもすぐ駆けつけてくれ、大きな事故につながらず、良かったです。

各部署と連携し摂食機能療法を推進した 5階西病棟 根本 愛子 さん

摂食嚥下チームの取り組みを評価していただきありがとうございます。当院の摂食嚥下チームは、急性期病院としての役割を担うため、早期からの摂食嚥下評価とリハビリ・安全な嚥下調整食の提供を目標としています。また、他施設への退院時には情報提供もしています。4月から言語聴覚士が入職し、摂食機能療法算定が可能になりました。今後も多職種で連携しチームの活動を運営していきたいと思っています。

地域発

医療法人社団 岡本内科クリニック

理事長 岡本 正敏先生 院長 岡本 敏哉先生



当クリニックは昭和47年、大通り公園に面したダイヤビル3F(現アセットプランニング大通ビル)に開業致しました。待合室からは大通り公園が見え、四季折々のイベントも見られます豊富な人生経験を生かし、傾聴を基本とした診療を貫く理事長である父と、9年前から一緒に診療していましたが、現在、理事長は月曜日の午前中のみ、クリニックに来て、産業医関係の仕事をしたり、馴染みの患者さんと昔懐かしい話をしています。

私自身の診療は、診療所ならではの患者さんとの距離の近さ、対話を大切にしております。私の専門である糖尿病等の生活習慣病を改善させるためには、まず普段の生活について率直にお話しして頂く事が大切なので、常に患者さんが病状、治療について相談しやすい雰囲気作りをし、一人ひとりの病状にあったきめ細かい治療をする様に心掛けています。また、検査データが正常でも『将来の合併症が不安だ。』『眠れない』等、色々な症状に悩まされている方も多くいらっしゃいますので、症状によりましては西洋薬のみでなく、漢方薬の服用により改善する事もございます。生活習慣病は医師と患者さんが力を合わせ、向き合って治していく病気です。皆様が健康で快適に過ごせる様にお手伝いをさせて頂きたいと思っています。

JR札幌病院との関わりは今をさかのぼる事、約18年前、旧病院の時代で、当時は札幌鉄道病院という名前でした。札幌市内でも由緒があり、歴史のある病院で、約1年半程ではございましたが、勤務させて頂いたき、諸先生方には大変お世話になりました。

現在は、昭和の味が残った当時の面影はなく、医療設備も整った近代的な病院となり、患者さんの紹介の際にも、『石狩街道沿いの病院ですね。』という感じで皆様大変よく知っておられます。

地域連携室の方々の対応も大変良く、患者さんや当クリニックスタッフも大変感謝しております。

先生方も熱心に講演会等、地域連携に力を入れて頂いた上で、最新の治療で、丁寧に診察、治療をして頂きまして、患者さんからの評判もとても良いです。

日常診療において、JR札幌病院が連携病院としてバックアップして頂けると、患者さんはもちろん、小生も大変心強いです。

今後も引き続き、良い病診連携をしていければと思っています。

今後とも、何卒宜しくお願い致します。



医療法人社団 岡本内科クリニック

札幌市中央区大通西7丁目2 アセットプランニング大通ビル3階
TEL:011-231-3378

理事長 岡本 正敏 院長 岡本 敏哉

診療科 内科

診療時間 9:00~12:30(月・火・水・木)、9:00~12:00(金・土)、
13:30~17:00(月・火・水・木)

休診日 日曜・祝日



新そらちゃん&はなちゃんシリーズ

“そらちゃんのはなちゃん最終回”

そらちゃん

はなちゃん



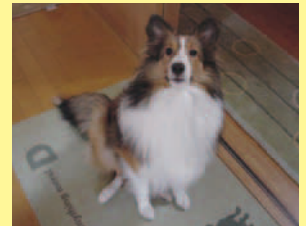
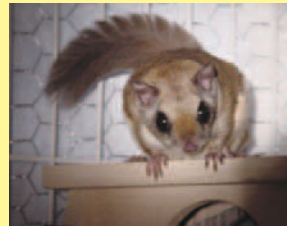
はなちゃん 「最終回になるけど、まだ自己紹介していなかったね、ぼくはモモンガのはなちゃんです、リスの仲間ですが、違いは飛行するのに、距離を測るため、眼が前についてるよ、すごくかわいいんだ、モモンガは、大きく分けて、大陸モモンガ(エゾモモンガなど)、北米にいるアメリカモモンガ(僕だね)、オーストラリアにいる袋モモンガの3種類なんだ、僕が、家族の一員になったのは、小学生の子供がどうしても欲しいとのことで僕が選ばれたんだよ、最初は店の人が女子だよと言ったので、はなちゃんの名前になったんだ、でもちゃんといっていたので男の子だとわかったんだよ」

そらちゃん 「子供さん達、喜んででしょう」

はなちゃん 「ちがうんだ、僕は夜行性なので、子供が起きている時間は寝てるんだ!」

そらちゃん 「ぼくは、シェットランド・シープドック、スコットランド出身で牧羊犬なんだ、コリー犬の小型版みたいなんだけど、違う種類なんだよ、性格は愛情深く、忠実で内気で酒飲み? 実は酒の匂いが大嫌いなんだよ、ご主人様あまり飲まないでね」

はなちゃんは7歳半、そらちゃんは12歳半(9月13日)で家族のもとを離れました。みなさん8年間ありがとうございました。



GW(ゴールデンウィーク)期間の外来診療のお知らせ

5月1日(水)、5月2日(木)を通常通り外来診療を行います。よろしくお願い申し上げます。

【診療日カレンダー】

日付	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6
曜日	土	日	月(祝)	火	水(祝)	木	金(祝)	土(祝)	日(祝)	月
診療の有無	診	休	休	休	診	診	休	休	休	休

休日:休 診療:診

いきいき 生き粋川柳

最優秀編集長賞

じわじわ染みる達人の全七句

- ・ 触診も 打診も今や 死語になり
- ・ 病院で 元気な顔を 確認し
- ・ 食べ残し 難民の子を 横目で見
- ・ 検査値の アルファベットの 意味知らず
- ・ どちら見る 患者の顔と パソコンと
- ・ 健診の 前だけ食も 健康に
- ・ 風疹 結核 そっと顔を出す

ペンネーム:キリンさん

編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆様はいかがお過ごしでしょうか?
私は、年末年始の暴飲暴食で体重が5キロも増加してしまいました(-_-)
今年の目標はスポーツジムに通い10キロを目指す決意をしました!!
でもジムは辛いのもっと効果的なダイエットなど知ってる方は是非教えてください(^^)v
本年も「ほっとネット」をどうぞよろしくお願い致します(____)

発行日/2019年1月31日

編集長/伴 紀宏

編集者/大村 早代・小原健太郎・河野 通晴・中澤 英之・中村あゆみ

夏目 健文・正木 良紀・松本 道明

発行所/札幌市中央区北3条東1丁目

JR札幌病院 広報誌企画編集委員会

<https://hospital.jrhokkaido.co.jp/>